

2022年度 かながわカーボンニュートラルセミナー 資料
(主催：神奈川県、横浜市、川崎市)

日清オイリオグループ株式会社 横浜磯子事業場

地球環境を次世代に引き継ぐために



2023年2月17日
日清オイリオグループ株式会社 横浜磯子事業場
環境保安課 荒木幸子

はじめに

1. 当社概要
2. 事業紹介
3. これまでの主な環境改善の取り組み
4. CO₂排出量削減に向けた取り組み
5. 持続可能な社会の実現に貢献するために



当社概要

商号	日清オイリオグループ株式会社 The Nisshin Oillio Group, Ltd.
本社	〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
代表者	代表取締役社長 久野 貴久
資本金	16,332百万円（2022年3月31日現在）
売上高	4,327億78百万円（2022年3月期・連結）
事業内容	油脂事業、加工食品・素材事業、ファインケミカル事業 等
国内生産拠点	横浜磯子事業場(横浜磯子工場)、名古屋工場、堺工場、水島工場
従業員数	2,987名（2022年3月31日現在・連結）

当社概要 ～沿革～

1907(明治40)年	大倉喜八郎、松下久治郎が「 日清豆粕製造株式会社 」の名称で創立 ※社名の由来は日本の「日」と清国(現在の中国)の「清」をとったもの。東京に本社、大連に支店、工場をもうけ、大豆を原料とする大豆油、豆粕の製造加工、貿易を業務とした
1918(大正7)年	社名を「 日清製油株式会社 」に変更
1924(大正13)年	精製度の高い大豆油を使い、 日本で初めてサラダ油「日清サラダ油」を発売
1948(昭和23)年	戦災で焼失した、横浜工場(旧横浜神奈川工場)の再建に着手し、翌年1月操業を開始
1959(昭和34)年	攝津製油株式会社(創立1889年=明治22年、現セッツ株式会社)の経営に参加
1963(昭和38)年	「 横浜磯子工場(現・横浜磯子事業場) 」の第一期工事を完了し、操業を開始
1969(昭和44)年	リノール油脂株式会社の経営に参加
1980(昭和55)年	丸紅株式会社と日清製油株式会社の出資により「 ニッコー製油株式会社 」を設立
1988(昭和63)年	中国大連に合弁会社「 大連日清製油有限公司(現・中糧日清(大連)有限公司) 」を設立
1991(平成3)年	台湾に合弁会社「 統清股份有限公司 」を設立
1994(平成6)年	構内の廃棄物をエネルギーとして再利用(サーマルリサイクル)する焼却設備設置
2000(平成12)年	「 環境報告書 」を発行。 横浜磯子工場がISO14001の認証を取得
2004(平成16)年	日清オイリオグループ株式会社、日清オイリオ株式会社、リノール油脂株式会社、ニッコー製油株式会社の4社合併により、 現在の「日清オイリオグループ株式会社」誕生
2007(平成19)年	創立100周年を迎える

当社概要 ～国内生産拠点～



◇「横浜磯子事業場」「名古屋工場」「水島工場」の3拠点は、6万トンクラスの大型船が接岸できる埠頭をもち、原料の荷揚げから搾油・精製・充填までの一貫した生産を実施



各拠点ごとに、保有する機能や設備、立地を活かした生産を行っています

◇「堺工場」は精製と充填に特化した生産を実施



1. 油脂 2. 加工食品・素材 3. ファインケミカル事業 4. その他の事業

1. 油脂

□油脂・油糧 □ホームユース（食用油）・業務用食用油 □加工用食用油 □油粕 など

□加工油脂 □パーム加工品 □チョコレート用油脂 □マーガリン □ショートニング など



ホームユース(食用油)



業務用食用油



加工油脂

売上高構成比

82.1%

2. 加工食品・素材

■チョコレート ■調味料 ■機能素材・食品 ■大豆素材・食品



チョコレート



調味料



機能素材・食品



大豆素材・食品

売上高構成比

13.4%

3. ファインケミカル事業

■ファインケミカル ■環境・衛生



売上高構成比



4. その他の事業

■物流、情報関連、販売促進、

保険代理店など

売上高構成比



横浜磯子事業場のこれまでの主な環境改善の取り組み

1970～

1979～

2017～

2021

<事業場主体>

- ◇ボイラー燃料を重油からガスに転換 (1979～1992)
 - ・ CO₂ / NO_x排出量削減とSO_x排出量ゼロ化
- ◇焼却施設更新⇒廃棄物処理の適正化(1993)
 - ・ 廃熱による蒸気回収 (再資源化)
 - ・ 廃棄物の減量化/ダイオキシン類等の発生抑制
- ◇大型ボイラー廃止⇒CGS導入(1994～)
 - ・ 燃料使用量 / CO₂ / NO_x排出量の削減等
 - ・ 廃熱による蒸気回収 (再資源化)
- ◇高圧ボイラ等の更新(2006～)
 - ・ 燃料使用量 / CO₂ / NO_x排出量の削減等
- ◇ゼロエミッション達成
 - ・ 2016年度以降継続

<職場主体>

省エネ活動

<オイリオ全生産拠点+他企業との協働>

- ◇「全国生産拠点のエネルギー調達から供給までの最適化」への取り組み開始(2017～)
 - ※JFEエンジとの協働による全社規模でのエネルギー融通の仕組みづくりの基本合意
- <ガスタービンCGS導入>
 - ・ 名古屋工場(2018)、横浜磯子事業場(2020)
 - ・ CO₂ / NO_x排出量の削減
- <エネルギーネットワークシステムの運用開始(2020)>
 - ・ 上記の電力をJFEエンジニアリングの送電ネットワーク等を駆使し、他生産拠点(堺工場、水島工場)へ電力を融通する無駄のないエネルギー利用
- ◇ 横浜市ブルーカーボン・オフセット制度の活用(2019～)
 - ・ ブルーカーボンクレジットの譲渡によるカーボンオフセット

横浜磯子事業場のこれまでの主な環境改善の取り組み



“植物のチカラ”

1994年 構内から発生する廃油や廃棄物を焼却し、その廃熱を利用(熱回収)する廃棄物適正処理施設を設置



- 助燃材として生産工程中の廃油を利用した廃油バーナー
- ロータリーキルン・揺動式ストーカーの二段焼却
- 電気集塵機、排ガス処理施設による有害物質等の除去
- 適切な温度管理等によるダイオキシン類の発生抑制
- 廃熱を有効活用した廃熱ボイラー

1995年 日本食糧新聞社主催
「日食・環境資源協力賞」を受賞



■電気集じん機
排ガス中の微細なばいじんまで集じんします。



■排ガス処理設備
空気予熱器で排ガス冷却し、排ガス吸収塔で有害物質を除去します。



■灰出装置
焼却灰は、灰出コンベアによってコンテナへ自動搬送されます。



■廃熱ボイラー
焼却時に発生する廃熱から蒸気回収を行い、エネルギーを有効に活用します。

横浜磯子事業場のCO₂排出量削減への取り組み



“植物のチカラ”

2020年 全生産拠点を結んだエネルギーネットワークの運用開始



- ◇ JFEIツヅニアリング (株)が横浜磯子事業場と名古屋工場に「ガスタービンコージェネレーションシステム※」を設置（名古屋工場2018年、横浜磯子事業場2020年完成）
- ※工場内で使用する電力を発電すると同時に、発電で発生する排熱を工場内で使用する蒸気エネルギーとして再利用

- ◇2020年から、横浜磯子事業場と名古屋工場で発電した余剰分を、JFEエンジニアリングの保有電源や送電ネットワークを駆使し、他生産拠点（堺工場、水島工場）へも融通する、生産に必要なエネルギーの調達から供給までの最適化による無駄の無いエネルギーネットワークを構築し、**CO₂排出量を削減（年間約9,200t-CO₂）**



2019年「省エネ大賞」, 「経済産業大臣賞」を受賞

横浜磯子事業場のCO₂排出量削減の取り組み

＜昨今の温室効果ガス削減実績＞

2019年 ◇横浜ブルーカーボン・オフセット制度導入（カーボンオフセットの実施）

《2019年度6.2t-CO₂、2020年度66t-CO₂、2021年度66t-CO₂、2022年度66t-CO₂》

2020年 ◇ガスタービンコージェネレーションシステムの導入と交換で大型ボイラーを1基廃止

2020年 ◇全生産拠点を結んだエネルギーネットワークサービスの開始

（横浜磯子事業場と名古屋工場の余剰電力を堺工場と水島工場等に融通）

⇒発電時の廃熱を回収・再利用した無駄の無いエネルギーの活用と、余剰電力の有効活用

《全生産拠点でのエネルギーネットワークにより、年間排出量 約9,207t-CO₂を削減》

2021年 ◇環境的メリットの付加価値が高いアイスコンデンシングユニットを導入（脱臭設備の更新）

⇒油の脱臭工程で使用する真空発生システムを蒸気多用の従来型から新規ユニットに更新し、蒸気由来のCO₂排出量を削減。

《年間排出量 約831 t-CO₂を削減》

◇バイオディーゼル燃料の利用開始

（試験等の使用済食用油を原料の一部に、(株)ユーグレナが製造するバイオ燃料を構内車両で利用）

⇒原料の藻類が成長過程の光合成で吸収するCO₂が、燃料使用時の排出量と相殺され実質的にゼロ

《低炭素・循環型社会の実現に貢献》

横浜磯子事業場のCO₂排出量削減への取り組み

<取り組みへの評価 ~「ヨコハマ温暖化対策賞」受賞~>

◇2018年受賞（2016年度実績）

- 隣接する東芝生産技術センターに弊社で製造したエネルギー利用効率の高い蒸気の供給を開始したことで東芝事業所の蒸気製造時のCO₂排出量を20%削減（前年比）

◇2021年受賞（2019年度実績）

- 製造工程内のエネルギー多量消費設備を高効率設備に更新し、CO₂排出量を約700t-CO₂削減（前年比）
- LED照明化の推進、製造及び搬送設備の効率化等によりCO₂排出量を約1,280t-CO₂削減（前年比）

◇2022年受賞（2020年度実績）

- ガスタービンコージェネレーションシステムを利用した全生産拠点を結んだエネルギーネットワークシステムの運用により全社でのCO₂排出量を約9,200t-CO₂削減（前年比）

全生産拠点でのCO₂排出量削減への取り組み

＜現在の主な取り組み＞

生産工程における無駄・ロスの削減をはじめとした省エネの推進と共に、再生可能エネルギーの使用割合の向上、資源循環の構築等を効率的に進めるため、全社でCO₂排出量削減策の検証や将来を見据えた環境関連技術の実装化、新エネルギーの利用の展開を進めています

1. 太陽光発電の導入（横浜磯子工場、名古屋工場、堺工場）～再生可能エネルギーの利用拡大～



現在3工場で導入を進めており、完成次第、順次稼働を開始しています。発電設備能力は700kW、年間発電量は1,027MWを想定しており、**年間排出量を約371t-CO₂削減の見込み**

2. バイオマスボイラーの導入(堺工場)～生産工程の副生物等をカーボンニュートラルなエネルギーとして活用～



2022年度2月に導入工事完了・稼働を目指しており、**年間排出量を約371t-CO₂削減の見込み**

持続可能な社会の実現に貢献するために



“植物のチカラ”

日清オイリオグループ ビジョン2030

Vision2030



当社グループでは、将来にわたって持続的に成長し、持続可能な社会の実現に貢献するため、長期的な視点で「2030年に目指す姿」と「戦略の指針」を示すことを目的に「**日清オイリオグループビジョン2030**」を策定しました。

持続可能な社会の実現に貢献するために

将来にわたって持続的に成長し、持続可能な社会の実現に貢献するために、今後予測される機会とリスク及び社会課題から、社会との共有価値の創造（CSV）を実現するための6つの重点領域を設定

すべての人の健康

人生100年時代を支える
心身の健康に貢献します

おいしさ、美のある 豊かな生活

「おいしさ」と「美」の追求を通じて、
より豊かな生活の実現に貢献します

地球環境

地球環境を次世代に
引き継ぐために
未来を見据えて挑戦します

食のバリューチェーン への貢献

お客さまと共に技術・商品・
サービスを磨き、お客さまが
創造する価値を高めます

信頼でつながる サプライチェーン

誠実さを大切に、強く、しなやかな
サプライチェーンを構築します

人材マネジメント

多様な人材の働きがい高め、
組織能力を向上し、
イノベーションを起こします

日清オイリオグループ ビジョン2030

Vision2030



〈地球環境〉

植物資源を事業のベースとする当社グループにとって、地球環境や資源の保護は事業の持続性そのものです。次世代のため、脱炭素社会、循環型社会の実現を目指し、未来を見据えて事業活動での環境負荷を最小限にする取組みを進めるとともに、環境課題の解決に資するビジネス領域の構築を進めます。

- ◎ サプライチェーンの温室効果ガス排出削減
- ◎ プラスチック容器・包装の削減および資源循環の推進
- ◎ 植物資源を活用した、環境にポジティブインパクトを与える商品・サービスの開発

日清オイリオグループ ビジョン2030

Vision2030



次世代に引き継ぐための「地球環境」を掲げ、資源循環の推進等と共に、地球温暖化の防止をテーマとし脱炭素を推進する戦略ロードマップを策定

< Scope 1, 2におけるCO₂排出量削減（2016年度比） >

[2022年度目標値 ⇒ 8%]

[2024年度目標値 ⇒ 8%]

[2030年度目標値 ⇒ 31%]

持続可能な社会の実現に貢献するために

日清オイリオグループは、これからも計画的な省エネルギー活動と革新的な技術の導入、再生可能エネルギーの利用などの推進によりCO₂排出量の削減に努め、地球温暖化防止に貢献してまいります。



ご清聴ありがとうございました。